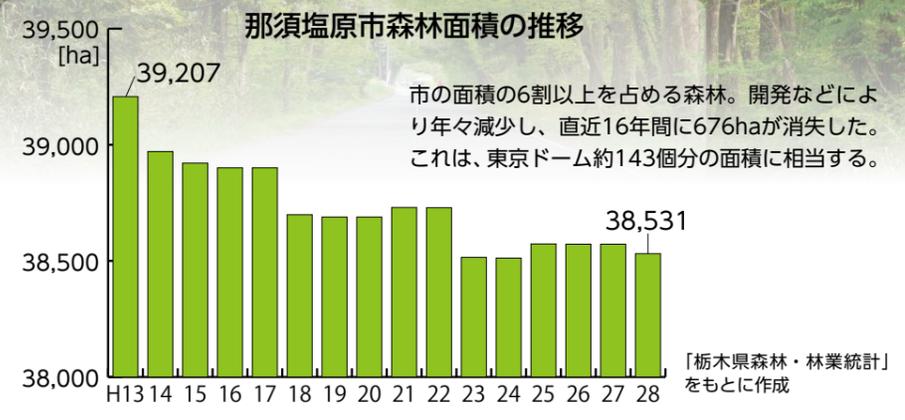


共に生きる



寺子地区の上空から

家が群がって建つ「ムラ」
田や畑など食糧を育てる「ノラ」
薪や炭、落ち葉を供給する「ヤマ」
人の営みにより保たれ、
多様な生き物が生息してきた環境は、
いま急速に失われようとしている。



通常の蛇尾川と氾濫する蛇尾川。普段は水無川であるため、横断する道路(洗い越し)が数か所ある。どちらも同じ場所の写真だが、様相が全く異なる。



自然を楽しむ 感じよう

私たちが癒してくれる自然の恵み。このまちには那須野が原公園など緑豊かな公園がたくさんあり、少し足を伸ばせば塩原など大自然が広がっています。一方、生活するうえでの利便性もきちんと確保されています。環境がバランス良く保たれているまちなので、思う存分に自然を楽しんで欲しいと思います。ただし、何点か注意が必要です。まずは自然を採らないこと。トって良いのは写真だけです。それから、保護のために設けられている木道などからは、はみ出さないでください。少しずつの配慮が、恵まれた自然を次の世代に引き継ぐうえで重要なのです。

さまざまな生物種が栄枯盛衰を繰り返してきた地球の長い歴史。恐竜のように、環境の変化に耐えられず絶滅した種も多くいます。確かに自然環境の変化による淘汰は、ある意味で自然の摂理です。しかし、現在絶滅の危機にさらされている種は、人の営みの代償で消えようとしているもの。中には、今は明らかになっていないものの、非常に有用な潜在能力を秘めているものもいるかもしれません。絶滅すると二度と再生はできないのが生物。今を生きている私たちが消失させて良いわけがありません。失われる前に現状を把握し、適切な保護を進めることが必要です。



オキナグサ



カワラニガナ

特有の自然がもたらす多様性

この地域には日本海側と太平洋側の植生が見られ、非常に変化に富んでいます。県内で確認された植物の72%が市内に生息していることから、本市の自然の豊かさがうかがい知れます。例えば、水無川の蛇尾川にも、オキナグサやカワラニガナなどの希少な植物が生息しています。他の植物にとっては栄養や水分が不足し、生育に適さない環境であっても、それらの種にとっては十分。水無川に時折生じる氾濫によって、水と栄養が供給される絶

自然の恵みを次の世代に残したい――

自然と戯れた思い出のあの場所は、今はもう…

酒井 芳男 氏
前・市動植物調査研究会長



「高校生の時は、学校の裏山で友達と昆虫採集や植物の標本作りに明け暮れていました。笑顔で振り返る酒井さんの眼は少し遠くを見つめていた。至る所に里山などの自然があふれ、各所に湿地もあったという。

里山の雑木林の落ち葉を拾って堆肥を作り、農業が営まれた一昔前。里山の木々は、人の手が加わることで再生を繰り返し、人と自然の良好な関係が維持されてきた。「化学肥料の普及や農業者の高齢化などにより、里

山は放置され、荒廃が進んでいます」。状況の改善は見込めず、彼の表情は少し曇る。

「トキソウやサギソウなどの植物や、ハッコウトシボなんかもありましたよ」と高校時代に遊んだ湿地を振り返る。分譲地の造成などにより、平地の湿地はほとんど消え失せ、今や見る影もない。当時の酒井青年を夢中にさせた植物たちは、今はもうそこからは姿を消し、レッドデータブックの中に掲載されている。

レッドデータブックについて詳しくは次ページ

快適な生活の影で消えるモノ

人の手が入らなくなり、荒れ果てる里山。分譲地の造成により、埋め立てられるため池。開発により失われる雑木林。ひと昔前まで人の暮らしと密接に関わっていた自然が急激に失われ、そこに棲む生物も姿を消しつつあります。それらの自然は、長い歴史の中で紡がれてきたもの。一度失うと、似た環境を再現したからといって、元に戻るわけではあり



中川 幸夫 氏
市動植物調査研究会植物部会長
那須塩原環境ボランティアの会副会長

妙なバランスが保たれていることが必要なのです。ダムなどで水量が制御されると、他の植物に生息地を奪われ生きていけないでしょう。

那珂川と箆川、蛇尾川が大地を削り、生まれた扇状地「那須野が原」。1917mを誇る山岳部から208mの平地まで、変化に富むこの土地には7700を超える種の生物が生息する。悠久の時を経て、この地で紡がれてきた命の連鎖。今、私たちの手によって、その鎖が途切れようとしている。